

『めじろくらし』的〈人・モノ・ミヤ〉

【めじろ】とは

【愛・め・じろ】(愛する、思い慕う、賞賛する、褒める、好む、好きになる、気に入る)の古語で、

【め・じろ】は、【珍・め・じろ】(珍・め・つら・しい)にも通じると考えています。

ここでは、『めじろくらし』研究会が厳選した情報をお届けします。

野生生物生息空間

「へビオトープ」を守る

「人・モノ・こと」を知る

〈へビオトープ〉は、地域固有の自然生態系を守ること。「ある生物を保護するとしても、その生物の採取を規制するだけではダメ。その餌となる生物や繁殖地、さらに餌となる生物や植物など、自然生態系全体を維持することが必要」という考えから、日本では1990年代からへビオトープの概念が導入された。

「2008年6月10日、自然発生的に発達した活動です。」と語る、軽井沢・借宿「ピオトープKBS」代表の小林敦氏。

「ピオトープKBS」では、休耕田を再生。4月から5月には古代米を植え、自生する野ハラアザミやツワブキなどの吸蜜植物の株分けや植栽。6月から7月には、ルバーブやラズベリー、ブルーベリーの収穫からのジャム作り。9月から10月には、旅をする蝶アサギマダラが多く飛来し、「蝶舞う夢街道」が開通する。10月以降は、稲刈りと収穫祭。枯れ草刈取りや、春からの作業に向けての畑の整備などに追われる。

軽井沢町の小学生探検隊トムソーヤクラブや、関東近郊の子どものために、草原や水田、畑と敷地全体を開放。自然観察や収穫などの、体験の場としても活用。

懐かしい田園風景と、生き物に出会える光景。自然も、守る人も、休むことなく時間が流れていく。

Biotope (ピオトープ) = Bio (生物) + Topos (場所)



軽井沢・借宿「ピオトープKBS」
Karuizawa Kariyado Biotope Station

軽井沢の西地区・借宿を中心に、生き物たちの命を育むためのピオトープを作っている、地域の住民グループ。浅間山麓に広がる自然の中で、当地に保存されていた貴重種を始め、生息する生き物を増やし続けている。

HP: <http://biotopekbs.sakura.ne.jp/>



ベランダや庭でも可能な
〈ミニ・ピオトープ〉

大きめの水鉢、水槽などに、ホテイアオイやカモンバ、スイレンなどの水生植物を植える。メダカやタナゴ、ヌマエビ、タニシ、イシガイなどを放つだけ。飼料を与えず、ピオトープ内の生態系だけで生活できる環境は、観察もでき、ずっと見ている飽きない小さな自然となる。

旅をする蝶・アサギマダラ。前翅長40〜60ミリ。

